

事業の実績	<p>本事業では、スポーツの文脈での新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）に伴ったストレス関連成長に関する知見の蓄積を目的として、調査会社（株式会社クロス・マーケティング）に委託し、大規模横断調査を実施した。なお、本事業の申請書提出時には、スポーツ実施者のみを対象に調査を実施する予定でいたが、スポーツ実施者以外の一般の人々のコロナに伴ったストレス関連成長も同時に見ることによって、より多面的にスポーツ実施者のストレス関連成長を検証することができると考え、スポーツ実施者を対象にした調査と一般の人々を対象にした調査の両方を実施した。</p> <p><b>【調査項目】</b></p> <p>フェイスシート、コロナに伴うストレス体験に関するアンケート、意味づけにおける同化・調節尺度、ストレス関連成長尺度、ソーシャルサポート尺度 等</p>
具体的な成果	<p><b>【スポーツ実施者を対象にした調査】</b></p> <p>約5000名を対象に調査を実施した。その中から、分析対象となるデータを抽出し、最終的には、500名のスポーツ実施者のデータを回収することができた。</p> <p><b>【一般人を対象にした調査】</b></p> <p>約1800名を対象に調査を実施した。その中から、分析対象となるデータを抽出し、最終的には、1000名のデータを回収することができた。</p> <p>本調査によって、スポーツの文脈でのコロナに伴ったストレス関連成長に関する極めて貴重なデータを収集することができた。ここで得られたデータを適切に解析することによって、多面的な検証を行なっていきたい。またこの検証結果を、今後、関国内外の学術学会および学術雑誌を通じて、積極的に報告していく。</p> <p>加えて、本調査の成果を、学校・教育現場にも還元していきたいと考えている。学校・教育現場においても、コロナに伴った多様な経験は、ネガティブな側面に目が向けられることが多いが、本調査から得られた科学的根拠を基に、「必ずしもネガティブな影響だけではなく、捉え方や向き合い方によっては、人として、スポーツ選手として、肯定的に変化する契機になる」ということを、生徒・学生に共有する活動を積極的に行っていきたい。ストレス関連成長は、次なるストレス体験に遭遇した際のストレス反応を低減する（鎌田，2006）ことやバーンアウトの発症に予防効果を有する（Hamama-Raz et al., 2021）ことが報告されている。申請者は、コロナを契機に、メンタルヘルスの問題で苦しんでいる生徒・学生にとって、ストレスフルな出来事をきっかけに成長する可能性があるという知見は、一筋の希望の光を見出し、心の支えになるのではないかと考えている。</p>